

タイトル	日本における学生のキャリア形成 ～アメリカやドイツとの比較～		
所属	南山大学人文学部人類文化学科	氏名	岡田京華

私が卒論のテーマとして考えているのは、タイトルにある通り、日本における学生のキャリア形成について教育制度やキャリア教育、社会構造の観点でアメリカやドイツと比較していくことだ。

現在、私は、自分たちに身近なインターンシップ(就業体験)とキャリア形成との関連性を調べている。

1. 日本のインターンシップ

長期(1ヶ月以上)のインターンシップを実施している企業は2%程度で、業務を実際に体感できるものは少なく、インターンシップとキャリア形成の関係は希薄だと考えられる。

2. アメリカのインターンシップ

長期のインターンシップを通常夏期休暇の2～3ヶ月行っており、就職活動において長期インターンシップ参加は必須条件のようなものである。そのインターンシップ先で就職する学生が多く、インターンシップとキャリア形成との関連度は高いと考えられる。

3. ドイツのインターンシップ

ドイツでのインターンシップは、「デュアルシステム」と呼ばれる職業学校の授業の一環として行われるものとして今回は理解した。ドイツの学校制度では、義務教育以降は、専門的なことを学ぶことになるハウプトシューレか大学に進む人が通うギムナジウムかを選択する。ここから、ドイツでのキャリア形成の注目点は、この時の選択だと考えられる。つまり、インターンシップはキャリア形成との関連はほぼないと考えられる。

参考

寺田盛紀 『ドイツの職業教育・労働教育：インターンシップ教育の1つの源流』 大学教育出版、2000年

文部科学省 『教育指標の国際比較』 平成24年度版

[「教育指標の国際比較」\(平成24\(2012\)年版\)\(mext.go.jp\)](https://www.mext.go.jp/a/yaku/109/1090201/1090201_01_0000001.pdf) 2021/12/06アクセス
キャリアタス就活2022「2022年卒特別調査 インターンシップに関する調査」

https://www.disc.co.jp/wp/wp-content/uploads/2021/04/internshipchosa_2022.pdf
2021/11/19アクセス